

カテーテル室看護と病棟看護をつなげる取り組みの報告

安西 美恵¹、川村 双葉¹、山口 友梨¹

¹社会医療法人大道会 森之宮病院

【背景】当院の下肢救済センターでは、CLTI 患者の治療を積極的に行っており、EVT 件数は 700 件/年を越えている。その中で、カテーテル室看護師と病棟看護師のコミュニケーションエラーが多いことに気付いた。今回、双方の主張や思いを聴きとり、カテーテル室看護が病棟看護師に伝わるよう、チェックリストやマニュアルを見直し、カテーテル室看護の実際を動画として作成した取り組みについて報告する。【目的】カテーテル室看護師と病棟看護師の双方が、根拠に基づいた看護を行えるよう、必要事項の見直しと動画を作成し、カテーテル看護の理解を深める。【方法】双方の主張を聞き取り、現状把握と課題を整理。カテーテル室入室チェックリストが煩雑であること、マニュアルの更新が滞っていたことが問題と考えた。入室チェックリスト・マニュアルの見直しと更新を行い、カテーテル室内で実施されている内容を写真付きの動画にまとめ、カテーテル前後の看護の根拠と注意点を提示した。【結果】入室チェックリストの更新により、申し送り内容が明確になったことで、申し送り時間が短縮した。また、マニュアルを動画として作成したことにより、双方が納得した看護を実践できるようになり、コミュニケーションエラーが減少した。【考察】煩雑化している業務をシンプルにすることはエラーを減らすことができると考える。また、業務を写真や動画として可視化することは、看護師の理解を得やすく、看護の標準化と患者にとって安全な看護につながる。